2021年（令和3年）
第2四半期決算説明資料

2021年11月11日
鉱研工業株式会社（証券コード6297）

目　次

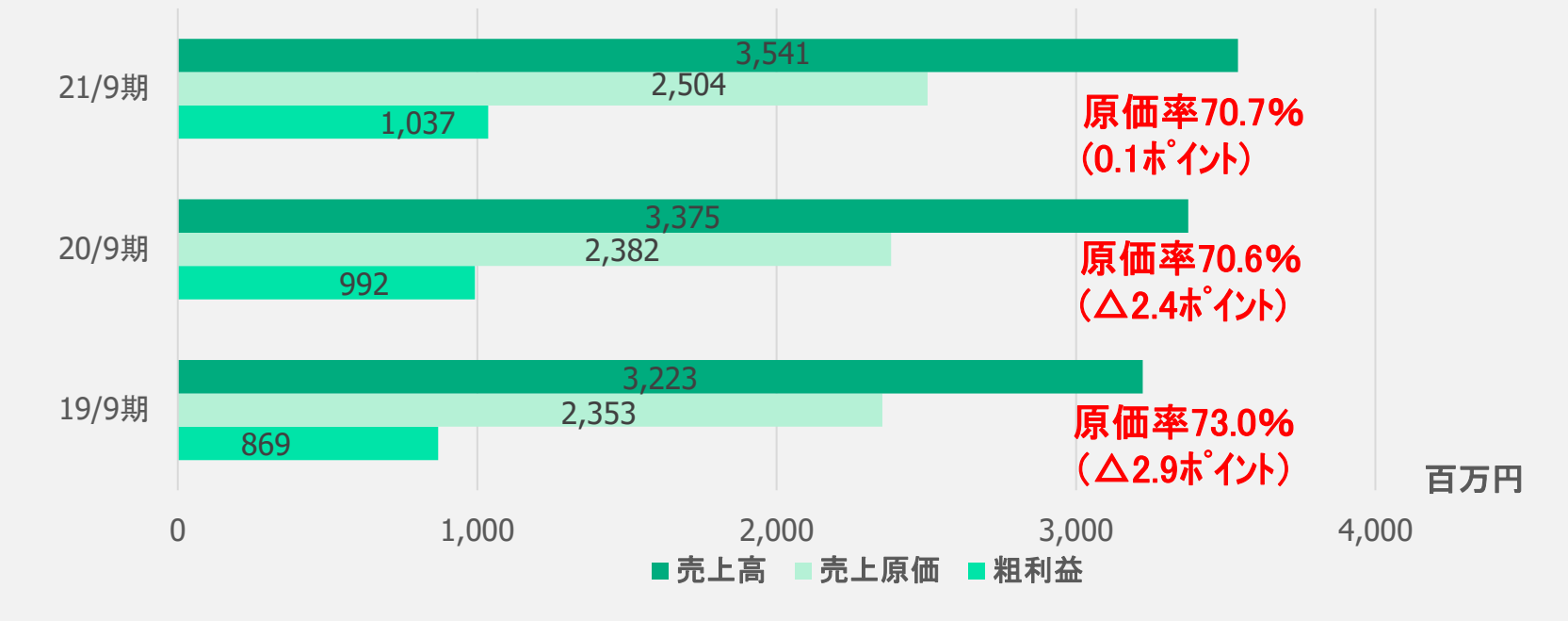
決算の概要（第２四半期累計）　3
2021年2Q決算（連結）のポイント　4
要約連結損益計算書　5
受注状況　6
売上高　7
海外売上高　8
粗利益の推移　9
営業利益（セグメント利益）　10
営業外損益　11
前年同期との経常利益差異要因　12
売上高・利益の推移　13
連結貸借対照表の概要（資産）　14
連結貸借対照表の概要（負債・純資産）　15
キャッシュ・フロー（CF）　16
2022年3月期連結業績見通し　17
伊勢原新工場建設中（2022年3月竣工予定）　18
新製品紹介　19

決算の概要（第2四半期累計）

（単位：百万円）

	連結			個別		
	20/2Q	21/2Q	増減	20/2Q	21/2Q	増減
受注高	4,606	3,661	△945	4,149	3,411	△737
売上高	3,375	3,541	166	3,013	3,229	215
営業利益	76	195	119	18	152	134
経常利益	77	187	109	19	144	125
四半期純利益	720	190	△530	687	159	△528
	21/3末	21/9末	増減	21/3末	21/9末	増減
総資産	9,226	9,710	484	8,573	9,164	590
有利子負債	1,437	2,504	1,066	1,362	2,445	1,083
自己資本 (自己資本比率) (D/Eレシオ NET)	4,654 (50.4%) (0.01倍)	4,454 (45.9%) (0.18倍)	△199 (△4.5p) (0.17倍)	4,359 (50.8%) (0.09倍)	4,124 (45.0%) (0.28倍)	△234 (△5.8p) (0.19倍)

2021年2Q決算（連結）のポイント



- 売上高：前年同期比166百万円増、原価率：同0.1ポイント増
- 売上高の増加により粗利益も増加（原価率は前年同期ほぼ同率）
- ボーリング機器関連…売上は国内海外ともに主力製品（RPD機）の出荷が増加
- 工事施工関連…トンネル調査工事、海外工事の売上は増加したが温泉工事、アンカー工事が減少

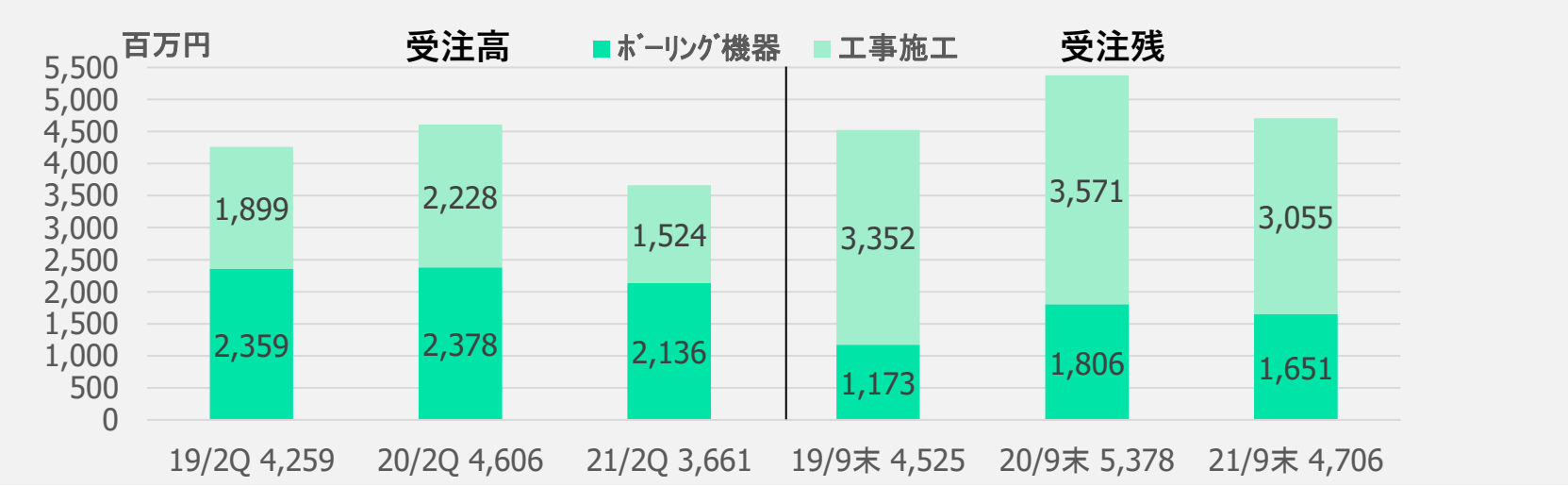
要約連結損益計算書

（単位：百万円）

	20/2Q	21/2Q	前年同期比増減	
売上高	3,375	3,541	166	4.9%
売上原価 （原価率）	2,382 （70.6%）	2,504 （70.7%）	122 （0.1%）	5.1%
売上総利益	992	1,037	44	4.5%
販売費管理費	916	842	△74	△8.1%
営業利益	76	195	119	156.7%
営業外損益	1	△7	△9	—
経常利益	77	187	109	141.1%
特別損益	960	0	△960	—
法人税等	314	△4	△319	—
非支配株主利益	2	2	△0	△28.4%
四半期純利益	720	190	△530	△73.6%

受注状況･･･受注高は前年同期比20.5%減

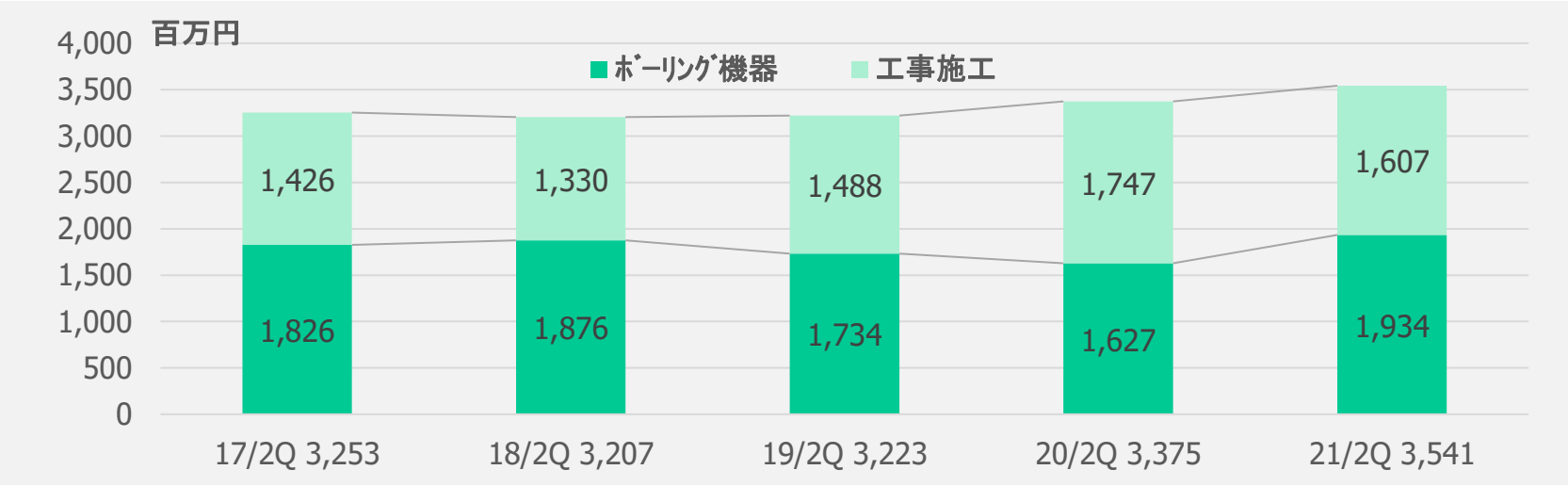
- 受注高は3,661百万円、前年同期比945百万円減（△20.5%）
  - ～ ボーリング機器は、海外の遅れていた中国向け機械本体関連の契約が纏まるも、国内で第2四半期（7月～9月）でのコロナ第5波の影響で受注活動量が低下し減少。結果、受注高全体では前年同期比241百万円減（△10.2%）
  - ～ 工事施工は、トンネル調査工事の追加受注分が工期延長となったことと大型工事も着工が延期されたことにより当四半期の受注とならなかったことにより減少。結果、受注高全体では前年同期比703百万円 減（△31.6%）
- 21/9末受注残は4,706百万円、前年同期比671百万円減（△12.5%）



売上高･･･前年同期比166百万円(4.9%)増

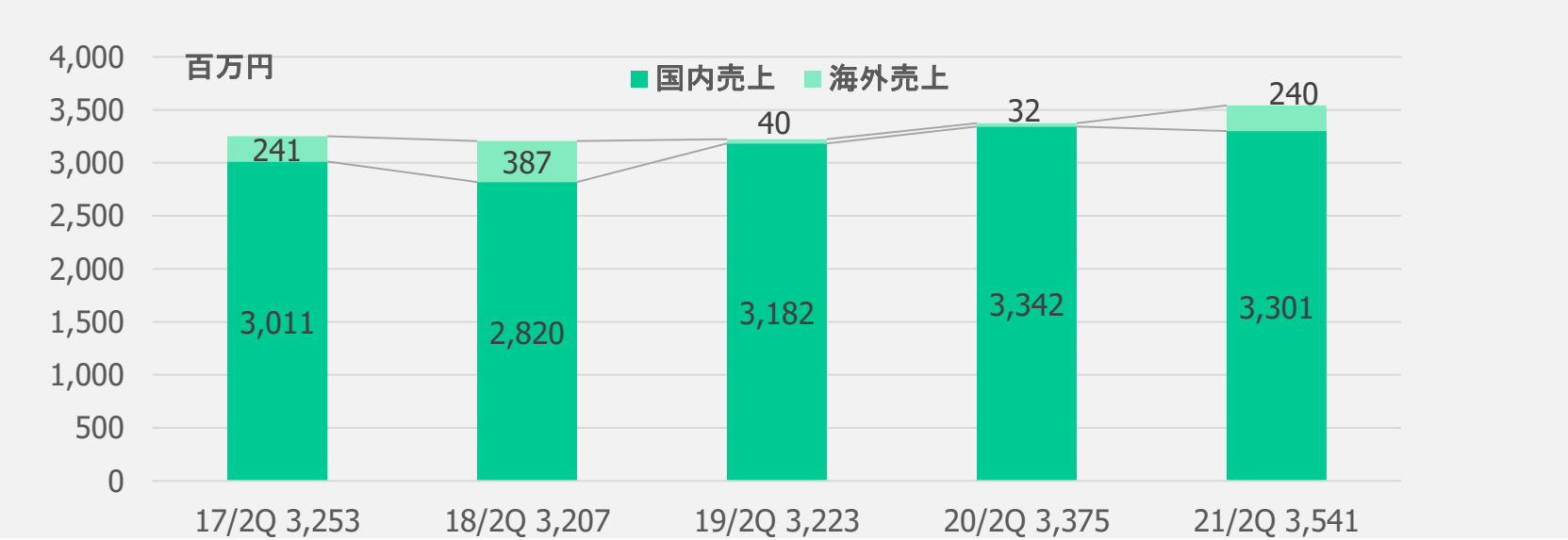
- ボーリング機器1,934百万円、前年同期比307百万円増（18.9%）
  - ・国内・海外（中国）ともに主力製品RPD機及び関連部商品の出荷・検収が増加

- 工事施工1,607百万円、前年同期比140百万円減（△8.0%）
  - ・国内工事はトンネル調査工事の売上が増加したが、温泉工事とアンカー工事の売上が減少
  - ・海外工事はインドネシアでの大口径掘削工事（BM工事）が進捗



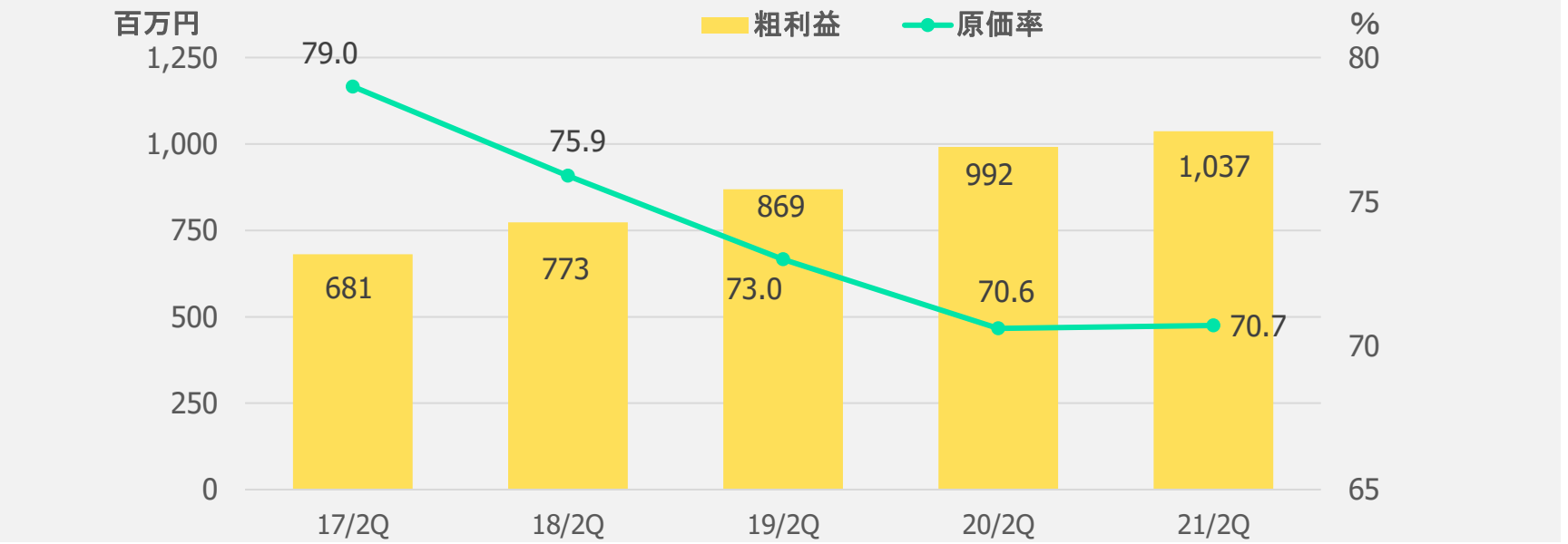
海外売上高･･･前年同期比631.7%増

- 海外売上は240百万円、前年同期比207百万円増～海外売上高比率6.8%
  - ・ボーリング機器関連の海外売上は144百万円増
    ～中国向けボーリングマシンコンポーネント販売が貢献
  - ・工事施工関連の海外売上はインドネシアBM工事が進捗63百万円
    （前期は海外工事なし）



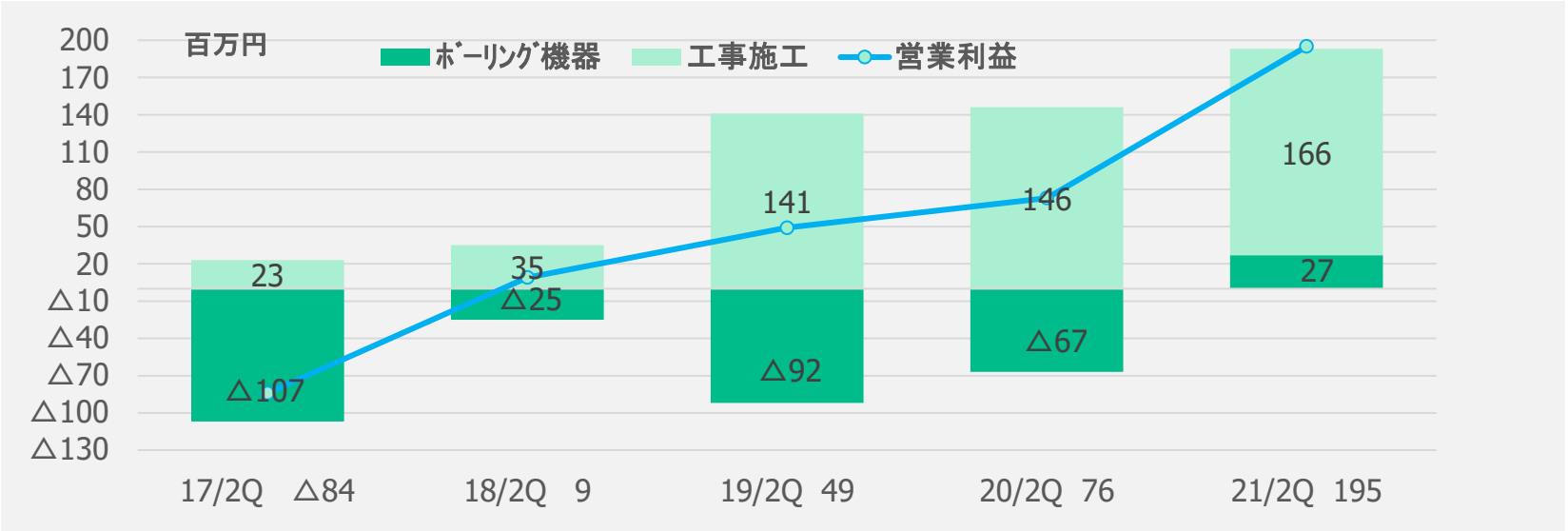
粗利益の推移･･･前年同期比4.5%増

- 粗利益は1,037百万円、前年同期比44百万円増（原価率0.1ﾎﾟｲﾝﾄｱｯﾌﾟ）
  ～ボーリング機器関連では売上高が18.9%増加したが、引き続き特機の原価高抑制体制を維持したことにより原価率は前年並みになり、粗利益は18.6%増加の594百万円
  ～工事施工関連では売上高は△140百万円減少し、当社得意工種の完工が少なかったことにより原価率も0.6ﾎﾟｲﾝﾄｱｯﾌﾟしたため、粗利益は9.9%減少の442百万円



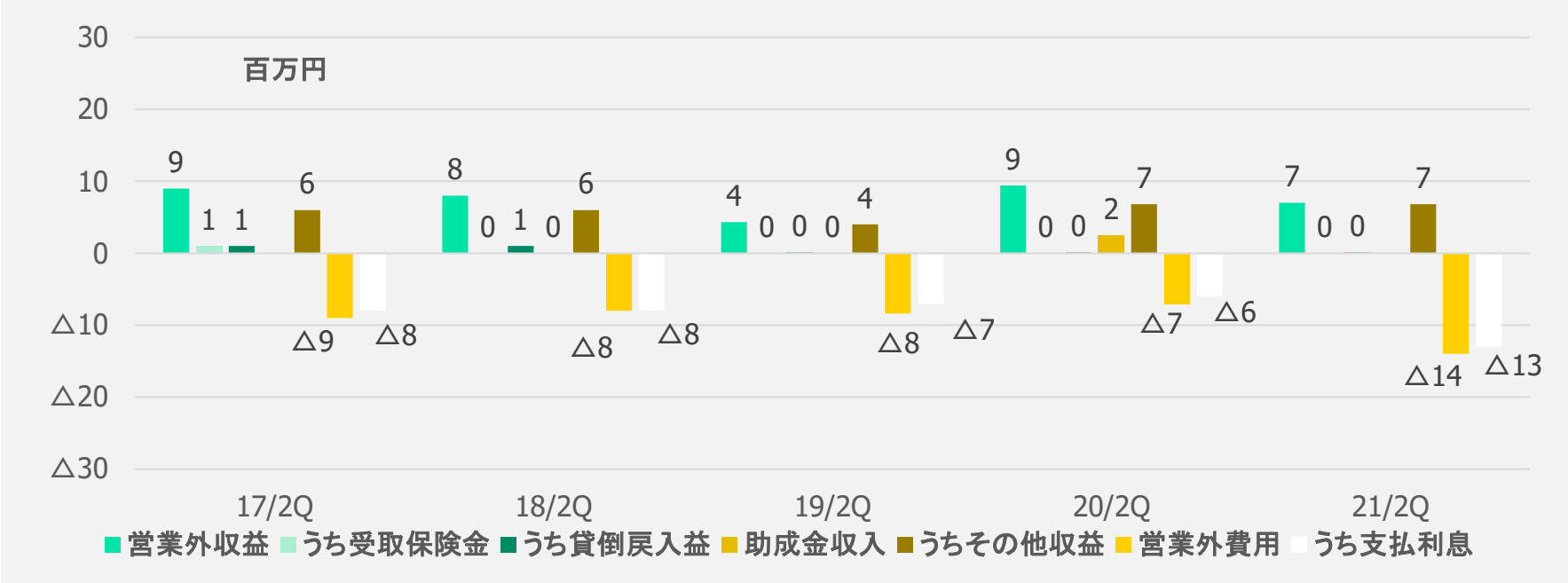
営業利益（セグメント利益）195百万円

- 営業利益195百万円、前年同期比119百万円増
- ボーリング機器関連は27百万円のセグメント（営業）利益を計上（黒字化）
  ～引き続き特機の原価高をおこさない体制による個別管理、棚卸評価損の減少、販管費負担減少
- 工事施工関連は166百万円のセグメント（営業）利益を計上
  ～売上高の減少（前年同期比△140百万円減）はあるが、販管費負担減少により増益



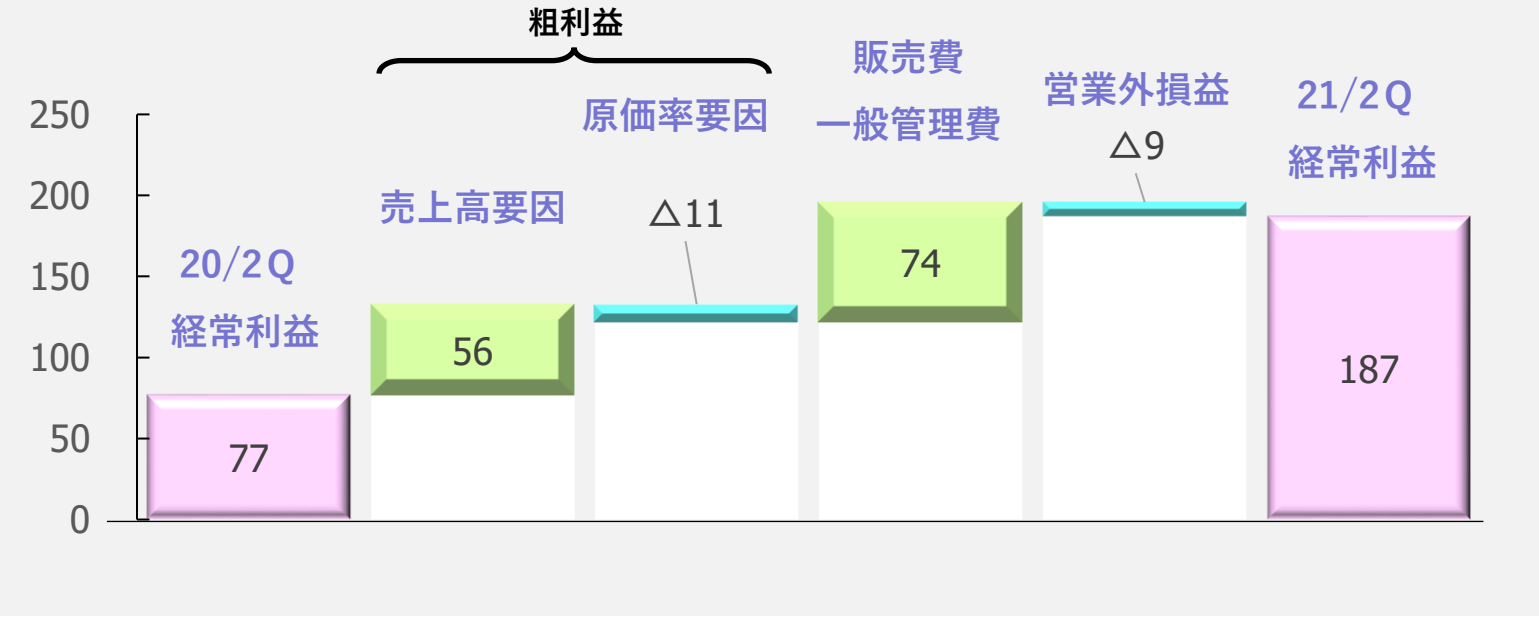
営業外損益（NETで7百万円の費用）

- 営業外収益・・・7百万円…前年同期比2百万円減少
  （前期はコロナ緊急対策としてのテレワーク助成金2百万円あり）
- 営業外費用・・・14百万円…前年同期比6百万円増加
  （ｼﾝｼﾞｹｰﾄ・ﾛｰﾝによる支払利息の増加）

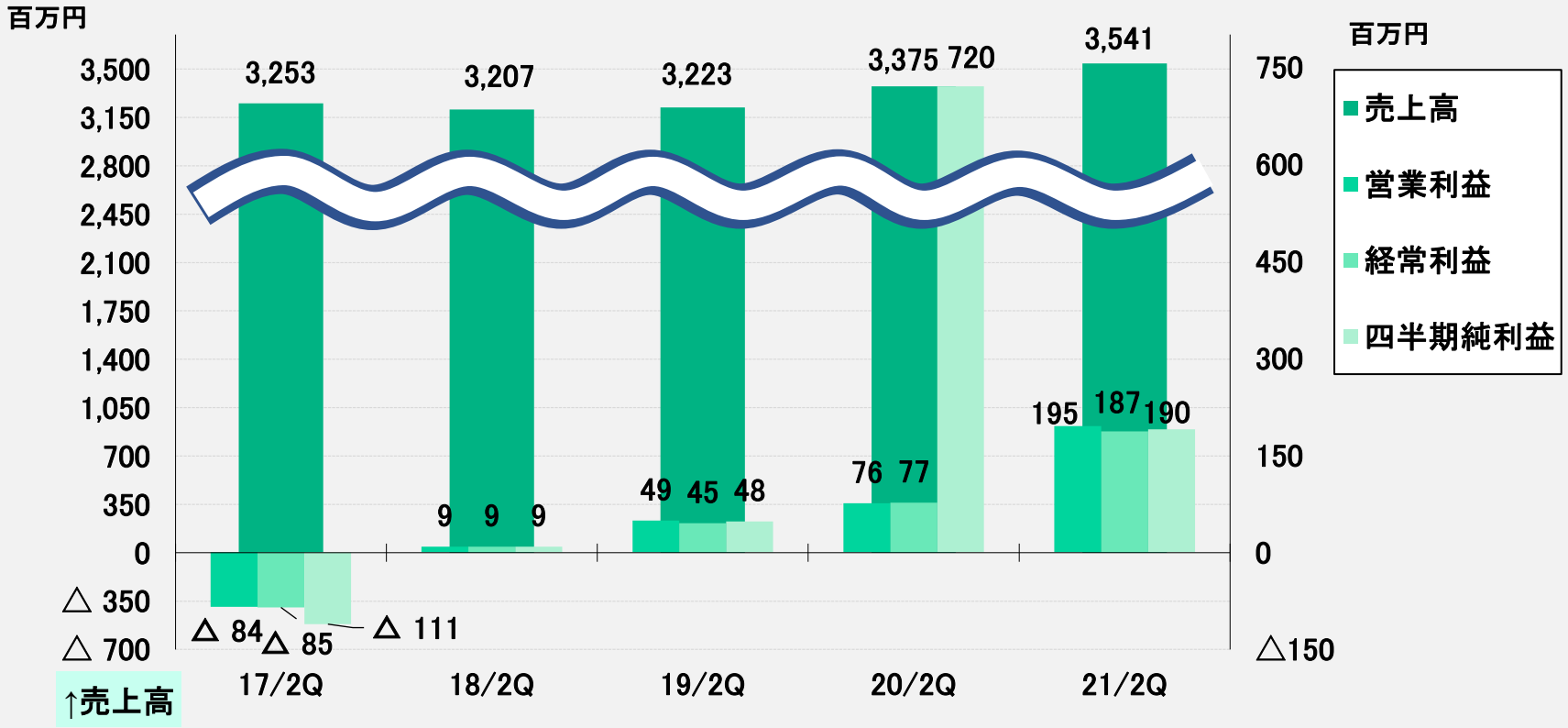


前年同期との経常利益差異要因

- 粗利益は44百万円増加
  ～売上高増により56百万円の増益
  原価率0.1ポイントアップ（70.6%⇒70.7%）の影響は△11百万円の減益
- 販売費及び一般管理費は74百万円減少
- 営業外損益NETで△9百万円の費用増加により、経常利益は187百万円
- 前年同期比109百万円の増益



売上高･利益の推移


百万円
3,500
3,150
2,800
2,450
2,100
1,750
1,400
1,050
700
350
0
△ 350
△ 700
↑売上高
百万円
750
600
450
300
150
0
△150
3,253
3,207
3,223
3,375
720
3,541
△ 84
△ 85
△ 111
9
9
9
49
45
48
76
77
195
187
190
17/2Q
18/2Q
19/2Q
20/2Q
21/2Q
売上高
営業利益
経常利益
四半期純利益

連結貸借対照表の概要（資産）

（単位：百万円）

	21年3月末	21年9月末	増　減
現金及び預金	1,415	1,725	309
売上債権	2,517	1,883	△633
棚卸資産	2,572	2,446	△125
その他流動資産	97	131	34
流動資産計	6,602	6,187	△415
有形固定資産	2,427	3,313	885
無形固定資産	61	60	△1
投資その他資産	134	149	15
固定資産計	2,623	3,523	899
資産合計	9,226	9,710	484

- **総資産は9,710百万円、484百万円増**

～ 流動資産は現金及び預金が309百万円、前払費用19百万円、未収入金が17百万円増加したが、売上債権（受取手形及び売掛金、電子記録債権、契約資産）が△633百万円、棚卸資産が△125百万円（ボーリング機器関連+46百万円、工事施工関連△172百万円）減少の6,187百万円

～有形固定資産は伊勢原新工場建設関係等で935百万円の設備投資を行う一方、減価償却△51百万円を実施。投資等では繰延税金資産が13百万円増加した結果、固定資産合計では前期比899百万円増加の3,523百万円

連結貸借対照表の概要（負債・純資産）

（単位：百万円）

	21年3月末	21年9月末	増減
買入債務	1,772	1,412	△309
短期借入金	690	890	200
長期借入金	747	1,614	866
その他	1,385	1,310	△74
負債合計	4,545	5,228	682
資本金	1,165	1,165	—
資本剰余金	0	0	—
利益剰余金他	3,635	3,432	△202
その他包括利益他	△146	△143	2
非支配株主持分	26	28	2
純資産合計	4,680	4,482	△197
負債・純資産合計	9,226	9,710	484

▫ 負債は5,228百万円、682百万円増

～買入債務（支払手形及び買掛金、電子記録債務、工事未払金）が△309百万円、未払法人税等が△97百万円が減少したが伊勢原新工場建設のためのシンジケート・ローンにより有利子負債（長短借入金）が1,066百万円増加

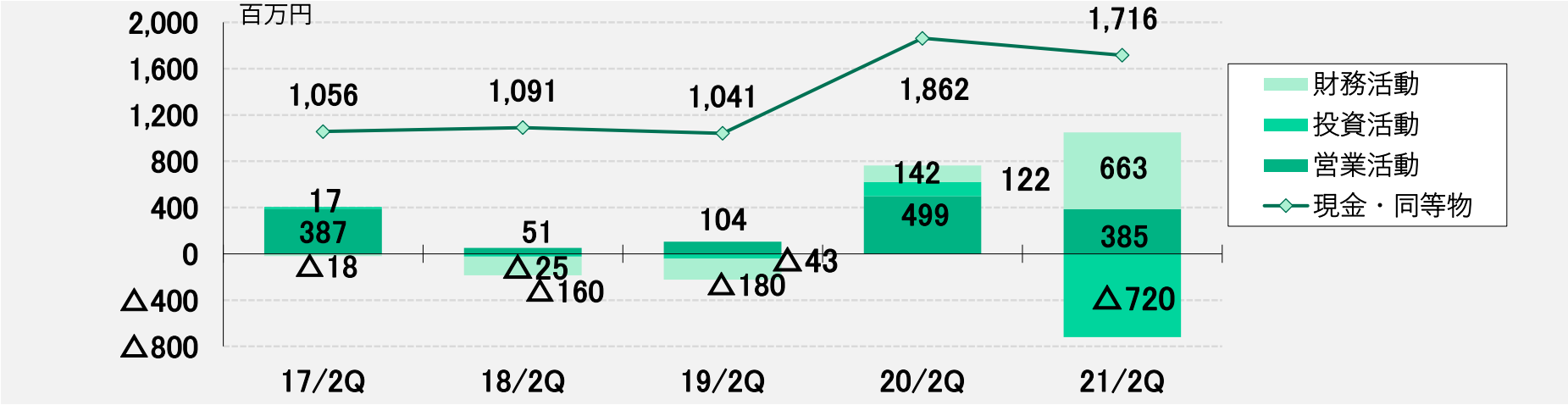
▫ 純資産は197百万円減少し4,482百万円に（自己資本比率45.9％）

～純利益190百万円、会計変更影響額9百万円、その他の包括利益2百万円、非支配株主持分2百万円が増加したが配当金支出△89百万円、自己株式取得△313百万円で減少

キャッシュ・フロー（CF）

- **営業CFは385百万円の収入** ： 収入の主なものは税前利益188百万円、売上債権の減少616百万円、棚卸資産の減少115百万円、減価償却費計上51百万円
  支出の主なものは仕入債務の減少△350百万円、未成工事受入金の減少△106百万円、未払消費税等の減少△59百万円、前受金の減少△39百万円、未払費用の減少△14百万円
- **投資CFは△720百万円の支出** ： 収入は拘束定期預金解約18百万円
  支出は伊勢原新工場建設資金等で△737百万円
- **財務CFは663百万円の収入** ： 借入金は1,430百万円の調達に対し△363百万円の返済
  その他の支出は、配当金支払△90百万円、自己株式取得△313百万円

■期末の現預金は期首に比べて328百万円増加し、1,716百万円に



2022年3月期連結業績見通し

- 新中期経営計画「STEPUP 鉱研ACTIONS 2025」（2021年度～2025年度）に基づき、持続的売上拡大と収益確保に努める
- 売上高は前期比8.7%増の8,200百万円を予想
- 売上拡大により、営業利益、経常利益段階では増益を予想
- 最終利益は前期比67.7%減の270百万円を予想
  （前期は厚木工場売却による特別利益963百万円を計上しているため最終利益比較は減少）
- 業績見通しの詳細は、2021年4月27日発表（決算短信）をご参照ください

（単位：百万円）

	21年3月期	22年3月期	増　減	
売上高	7,541	8,200	658	8.7%
営業利益	260	400	139	53.5%
経常利益	177	360	182	103.4%
親会社株主に帰属する当期純利益	835	270	△565	△67.7%

注）上記予想は、当社が本日現在において入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており実際の業績は今後、新型コロナウイルス感染症の影響など様々な要因によって予想数値と大きく異なる可能性があります。

伊勢原新工場は順調に建設中です。(2022年3月竣工予定)

◆伊勢原工業団地(神奈川県伊勢市)に新工場を建設中。 2022年3月末竣工予定

◆現厚木工場から5月迄に移転完了し、6月本稼働予定

◆ボーリング本体・ツールス製造の生産能力を高め、生産効率を1.5倍に

◆自社太陽光発電設備を含むRE100工場

◆新工場の敷地面積は約21,500㎡で、工場棟の広さは現厚木工場の1.5倍の約6000㎡

新製品紹介

Safety
Save
Satisfaction

鉱研 3つのスピリッツ

■1 安全作業
■2 省力化（人員削減）
■3 ユーザー満足度の向上

雷穿
RAISEN
RPD-70C-DFC

リモートコントローラ

クローラ搭載無線操縦型アロードリル

RHS-2

鷲摑 弐号機

リモートコントローラ

鷲摑 壱号機
RHS-1

無線遠隔操作式ドリルロッド着脱機

http//:www.koken-boring.co.jp

(C) KOKEN BORING MACHINE CO., LTD. All Rights Reserved.